様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　５月１６日現在

機関番号：１１３０１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：22730500
研究課題名（和文）俳句の省略表現の読解に関する教育心理学的研究

研究課題名（英文）Research on elaboration of haiku comprehension

研究代表者
深谷　優子（FUKAYA　YUKO）
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：00374877

研究成果の概要（和文）：
本研究では，日本の文化・社会に特有の省略や直接表現を避けた言語表現の代表として俳句を取りあげ，俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度として，読書経験・読書態度尺度を開発した。また，ピアレビュー（共同推敲）の教授技法を用いたところ，主に俳句理解の質的側面が支援可能であること，またその前提として，自分で予想したり考えたりするなどの思索専念傾向の態度を保障するような環境づくりが重要であることが明らかとなり，俳句理解の支援のための実践的な方策の示唆を得た。

研究成果の概要（英文）：
In a series of researches, scale for reading experience and reading attitude was developed as a measure for the individual traits that were relevant to haiku poem comprehension. In one of the researches, the result showed that “Peer-Review”, an interactive technique that was based on a collaborative model of writing, supported to elaborate haiku poem comprehension. Those findings suggested that environment which secures the readers to concentrate on reading and thinking would be important especially.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2010 年度	900,000	270,000	1,170,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
2012 年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総　計	1,900,000	570,000	2,470,000

研究分野：社会科学
科研費の分科・細目：心理学・教育心理学
キーワード：読解，俳句，読解力，

１．研究開始当初の背景

(1)読解力育成研究に対する社会的な要請

近年日本において読解力低下と，その改善ための対策の必要性が論じられている。文部科学省は「これからの時代に求められる読解力の養成には，教科の枠を超えた共通理解と取り組みが必要だ」としている。これは OECD 学習到達度調査（PISA）での論理的思考力を含む読解力の低さを受けたものであり，文科省が打ち出した読解力向上プログラムでは，PISA 型「読解力」として「自らの目標を達成し，自らの知識と

可能性を発達させ，効果的に社会に参加するために，書かれた文章や資料を理解し，利用し，熟考する能力」として，文章やデータを解釈し論理的に思考できる力としての読解力の養成に重きが置かれている。

(2)PISA 型読解力と文化・社会に固有の読解／言語理解（コミュニケーション）力

ただし，ここで注意すべきは文科省が照準を当てている PISA 型読解力とは，あくまでも OECD-PISA が定義した「読解力（リテラシー)」であり，必ずしも日本の現代社会における読解力（ないし情報活用能力，コミュニケーション力）を量・質ともに適切に描写しているわけではないという事実である（OECD-PISA の読解力テスト構成は各国のカリキュラムからの折衷案だとも言われている)。したがって PISA 型読解力にのみに焦点を当てることは，日本の文化・社会に特有のコミュニケーション（ここでは特に言語情報を理解し活用する場面を想定する）能力を軽視する危険性がある。以上のような PISA 型読解力およびその限界に関する認識を踏まえて，他国では必ずしも PISA 型読解力育成のみに重点を置いているわけではない。たとえば韓国では，読解に関するリテラシーを「基礎的リテラシー（文字や語彙，文法)」，「機能的リテラシー（分析的思考，批判的思考，創造的思考)」，「文化的リテラシー（文学等ジャンル別の対応，文化的な背景，コミュニケーション場面，知識（伝統，コミュニケーション，言語表現，文学))」とに分類し，カリキュラムもこれに応じて構成している（cf.，キム，2007)。日本も PISA 型読解力だけでなく，日本の文化・社会を踏まえた読解力およびそのアセスメントを改めて考える必要があると言えるであろう。

(3)俳句理解における情報の復元・拡充過程

俳句は基本的に十七音という制約がある日本の伝統的文芸であるが，俳句で用いられる省略表現や直接表現の回避は，現代のわれわれの生活においても遍在するものであり，したがって俳句を適切に理解する読解力は日本の文化・社会においても必要とされる能力と考えられる。また読解力育成の観点から見ても，俳句理解では限定された情報からの描写された情景や深層の心情を復元・拡充する作業が伴うため（cf.,皆川，2005)，とくに精緻化（具体化・吟味）(cf.,深谷 2009b）を強調した読解力育成には適切な題材だと言えよう。俳句の読解モデルを検討した皆川 (2005) は，描写された情景の理解を出発点とし，さらに深層の心情の理解まで必要だと指摘した。このとき俳句理解の個人差については，俳句の詠み手（作者）の熟達化による説明はあるものの，一般の読者がどのように限定された情報から意味を復元・拡充するのか，またその過程に関連する特性はいかなるものか，の検討はまだなされていない。さらに皆川は俳句の不適切な理解として描写された情景のみの表層的な理解と，描写に基づかない空想的な理解を指摘しているが，俳句理解の復元・拡充過程において，いかに不適切さを減じ，適切さを確保するのかについての検討も，知見の教育現場への適用を考える際には有用であろう。

２．研究の目的

本研究では，日本の文化・社会に特有の省略や直接表現を避けた言語表現の代表として俳句を取りあげ，俳句の理解過程および関連する個人特性，そして理解支援について包括的に検討することを目的としている。俳句の理解には省略された情報からの情報の復元・拡充が必要とされることから，内容の精緻化（具体化・吟味）に関連する読解能力と関わると考えられる。また，本研究の成果は，俳句と同様に情報の復元・拡充作業が必要な言語情報の理解についても適用可能であると予想される。

３．研究の方法

本研究では，俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発，ピアレビュー（共同推敲）の教授技法を用いた俳句理解支援，の２つアプローチにより研究を行う。いずれも対象は青年・成人である。

(1)俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発

①研究 1：質問項目作成

対象：青年・成人 50 名程度

方法：質問紙

目的：自由記述も含め関連する特性について収集し，質問項目を作成する。

②研究 2：尺度試案作成

対象：青年・成人 200 名程度

方法：質問紙

目的：収集したデータを因子分析等統計的に検討し，項目を調整して試案を作成する。

③研究 3：尺度の信頼性および妥当性の検討

対象：青年・成人 50 名程度

方法：質問紙

目的：収集したデータより，尺度の信頼性および妥当性を検討する。

(2)ピアレビュー（共同推敲）の教授技法を用いた俳句理解支援，

④研究 4：ピアレビューによる俳句理解支援

対象：青年・成人 30 名程度

方法：ピアレビュー（共同推敲，下図参照）

目的：省略された表現からの復元・拡充を伴う意味の理解においてピアレビ

ュー（共同推敲）が有効か，個人差の視点も入れて検討する。

４．研究成果

(1)俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発

研究 1～研究 3 では，俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発研究を進めた。

①研究 1：質問項目作成

大学生を対象とした調査での自由記述等から読書経験および読書態度に関する質問項目 75 項目を作成した。

②研究 2：尺度試案作成

上記の読書経験および読書態度に関する質問項目を用いて質問紙調査を実施し，261 名のデータを得た。因子分析を行ったところ，4-6 程度の因子で解釈することが妥当であった。

Table1 読書態度尺度の因子間相関

	1 読書回避			
2 読書熱中	-.429	2 読書熱中		
3 意外性受容	-.118	.399	3 意外性受容	
4 共感重視	.135	.222	.373	4 共感重視
5 思索専念	-.173	.433	.384	.257

そこで暫定的に 5 尺度を構成し（読書回避傾向，読書熱中傾向，展開意外性受容傾向，共感重視傾向，思索専念傾向），読書経験との相関分析を行ったところ，　読書熱中傾向と思索専念傾向とに正の相関が，読書回避傾向に負の相関が一貫して見られたことから，これらの尺度は一般的な読書好きの程度を複数の側面から測っている尺度と推察された。また，展開意外性受容傾向に関しては，推理作家の読了数との相関が高く，この意外性受容傾向の程度が推理小説の読解に関与している可能性が示唆された。

Table2-1 読書態度と読書経験（既知の文芸家）との相関

	文豪	詩　歌俳	芥川賞	推理
1 回避	-.107	-.035	-.121	-.183**
2 熱中	.111	.088	.247**	.353**
3 意外性	.107	.071	.118	.257**
4 共感	-.007	-.045	-.041	-.152*
5 思索	.097	-.014	.138	.133

＊ 5%水準で有意，** 1%水準で有意。

Table2-2 読書態度と読書経験（読了済の文芸家）との相関

	文豪	詩歌俳	芥川賞	推理
1 回避	-.263**	-.146*	-.185**	-.283**
2 熱中	.369**	.220**	.294**	.466**
3 意外性	.275**	0.125	.149*	.406**
4 共感	0.082	-0.019	0.016	-0.011
5 思索	.361**	.201**	.224**	.324**

＊ 5%水準で有意，** 1%水準で有意。

なお，俳句の理解には省略された表現を復元ないし拡充する過程が必要であり（皆川，2005），推理小説の読解との関連性が指摘されている（深谷，2008）。これらの結果については，日本心理学会大会にて発表された。

③研究 3：尺度の信頼性および妥当性の検討

研究２までの成果に基づき，俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発研究を進めた。

読書経験・読書態度の項目について，大学 1 年次および 2 年次に，同じ協力者に 2 度回答してもらい，尺度としての信頼性について検討した。調査の間隔はほぼ 1 年であった。また，データがそろって分析の対象となったのは 43 名であった。

読書経験の調査 2 回の結果を比較したところ，既知度および読了経験ともに相関が高かったことから，指標としての信頼性は高かった。

読書態度項目の調査2回の結果の比較では，相関が中～高の相関が見られた項目が多かった。

2 回の結果で差があった項目を見ると，1 回目よりも2回目のほうが低下していた項目は，「18 話にひきこまれるように，熱中して読んだことがある」「32 自分と共通点のある登場人物のいる話が好きだ」「72 試練を乗り越える話が好きだ」であった。1 回目よりも2回目のほうが上昇していた項目は「20 いつかは答えがわかるだろうから，あまり気にしない」「35 事件や事故の話はこわいので，読みたくない」「73 話の結末が早く知りたい」であった。以上より，共感できる登場人物の存在や困難克服などの，特定の要素へのこだわりが減り，曖昧さや不確実さへの耐性が増していると言える。

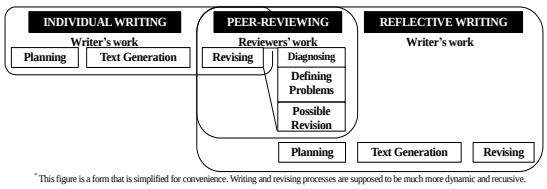
これは，言わば認識論的信念が発達したとも解釈可能であり，大学生活による影響と推察される。これらの研究成果は，日本心理学会大会にて発表された。

(2)ピアレビュー（共同推敲）の教授技法を用いた俳句理解支援，

④研究 4：ピアレビューによる俳句理解支援

俳句のように復元ないし拡充が必要とされる読解との関連についての研究を進めた。その際，研究 1～研究 3 までの俳句理解に関連する個人特性測定のための尺度開発の研究成果である読書態度尺度も用いた。

大学生 32 名を対象として，12 句を呈示して好きな俳句を選択させ，その解釈について記述させた。その後，別の 3 名によるピアレビューを経て，選択した俳句の解釈について再度記述させた。また，前回からの変更・修正点および他者からのコメントについてのリフレクションに従事させた（以上，深谷(2009b)の教授技法を用いた。下図参照)。



*This figure is a form that is simplified for convenience. Writing and revising processes are supposed to be much more dynamic and recursive.

Figure 1 Three-Phased Instructional Model that Enhances Revision and Revising Process of Writing with Collaboration

記述の分析から，二回目の記述にはコメント内容を取り入れる修正が多くみられたが，一回目と比較して字数は減っており，俳句理解の復元・拡充の質的側面にピアレビューの効果がみられた。

また，読書態度尺度では，思索専念傾向および読書熱中傾向との関連が示唆された。結果から，ピアレビューにより，俳句理解の復元・拡充過程の質的側面が支援可能であること，またその前提として，自分で予想したり考えたりするなど読者の思索専念傾向態度を保障するような環境づくりが重要であることが明らかとなったことを踏まえ，俳句理解の支援のための実践的な支援方法の示唆を得た。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計２件）

① 深谷 優子、2011 年 9 月 17 日、詩歌および推理小説の読書経験と読書態度の尺度開発（1）―検査‐再検査による検討―、日本心理学会第 75 回大会発表論文集、p.867、日本大学

②深谷 優子、2010 年 9 月 20 日、 詩歌および推理小説の読書経験と読書態度との関連（1）：読書態度尺度の開発とその検討、日本心理学会第 74 回大会発表論文集、p.877、大阪大学

６．研究組織

(1)研究代表者

深谷　優子　（FUKAYA　YUKO）
東北大学・大学院教育学研究科・准教授
研究者番号：00374877

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし